

いのちの山河 日本の青空Ⅱ

大澤 豊監督作品

企画・製作：「日本の青空Ⅱ」製作委員会・有限会社インディーズ

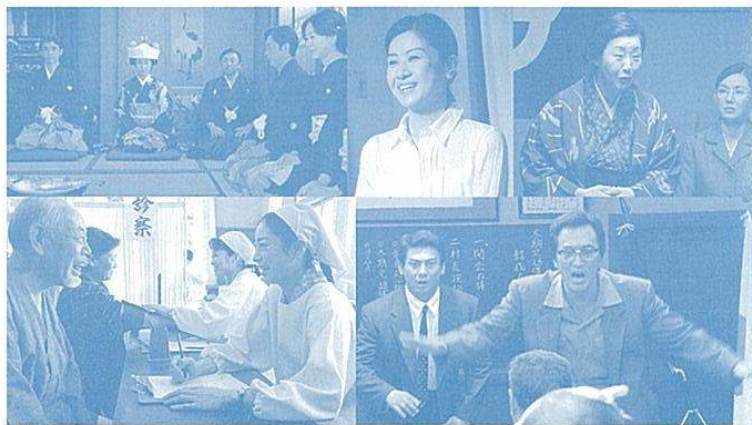


あきらめから 自信と誇りの明るい笑顔へ

長く無医村であった岩手県の山あいの沢内村――

父・晟訓(加藤剛)から医者になることを期待されつつも村を離れていた深沢晟雄(長谷川初範)は、妻・ミキ(とよた真帆)と帰郷し、村の抱える「豪雪・多病・貧困」という三悪を克服しようと立ちあがる。やがて村長となった晟雄は、『生命尊重』の理念を掲げ、憲法25条※を盾に、当時は国保法違反であった老人と乳児の医療費無料化に踏み切る。そして全国でも最悪だった乳児死亡率を、全国初の死亡率“ゼロ”へと導く。この“生命行政”を実現するには、晟雄と村民たちの奮闘の日々と数々のドラマがあった…。

※日本国憲法第25条1. すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。



‘行脚と対話’で いのちを守った深沢晟雄



戦後、沢内村(現・西和賀町)に帰郷した深沢晟雄(1905～65年)は教育長時代、新しい村づくりに向けて‘行脚と対話’の姿勢で婦人会づくり、広報創刊、ナメコ栽培普及に尽力する。村長になってブルドーザー導入で豪雪を克服。61年の老人と乳児の医療費無料化で、全国の先駆的存在となる。

「生命尊重こそが政治の基本でなければならない。」
「住民の生命を守るために私は命を賭けよう。」
晟雄のこの政治理念を具体化した下記計画を
基に沢内村の“生命行政”は展開された!

沢内村地域包括医療実施計画の目的と目標

＜1962(昭和37)年計画策定 一部抜粋＞

幸福追求の原動力である健康を人生のあらゆる時点で理想的に養護するため

(目標)

- ①すこやかに生まれる
- ②すこやかに育つ
- ③すこやかに老いる

これらの目標を実現するためには、
誰でも(どんな貧乏人でも)

いつでも(24時間365日生涯にわたって)

学術の進歩に即応する最新・最高の包括医療サービスと、文化的な健康生活の保障を享受することが必要である。

※製作協力券は「日本の青空Ⅱ～いのち輝く里～」(旧タイトル)となっていますが、本作品の鑑賞券としてそのまま使用できます。(有効期限2010年12月末)

映画 いのちの山河 日本の青空Ⅱ

3月6日(土) 喜多方プラザ小ホール

3月9日(火) 若松市文化センターホール

上映開始時間

1回目 AM 10:00

2回目 PM 2:00

3回目 PM 6:30

※上映時間 約120分

映画鑑賞券

一般 1,000円
(当日1,500円)

学生・生徒 800円

就学前児童 無料

■主催 いのちの山河上映実行委員会(生活協同組合コープあいづ・会津医療生活協同組合)

■後援 会津若松市・会津若松市教育委員会・喜多方市教育委員会・会津若松市社会福祉協議会・喜多方市社会福祉協議会・福島民報社・福島テレビ・福島中央テレビ・テレビユー福島・ラジオ福島・エフエム会津・福島放送・喜多方シティエフエム